



【福岡県】
活動報告 1

日本プライマリ・ケア連合学会 福岡支部総会

令和2年1月25日

寒雨のなか、博多駅上 JR 博多シティ会議室に 27 名の福岡県の学会員が参集し、支部総会が執り行われました。基調講演として、お休みされた草場理事長に代わり、前野副理事長より学会ウェブ会議システムを用いて「日本プライマリ・ケア連合学会が多職種とともに築く未来のビジョンとこれからの新・家庭医療専門医とは」という演題でご講演を頂きました。



<https://www.shin-kateiiryu.primary-care.or.jp/>

続きまして、福岡県支部規約に基づく支部長・副支部長・監事の選出が行われました。参加者 27 名および委任状を出された 106 名の学会員により、福岡県学会員 437 名の 4 分の 1 以上となり、総会が成立しました。

現任の西野憲史支部長（西野病院）、茂木恒俊副支部長（久留米大学医療センター総合診療科）に代わりまして、鍋島茂樹（福岡大学病院総合診療部）が支部長に、吉田伸（飯塚病院・潁田病院）が副支部長として承認されました。他 4 名以内の副支部長および 2 名の監事、12 名の世話人につきましては、人事が確定していないことから、新支部長が指名し、次年度の総会において承認を検討する方針が決定されました。



結びのクロストークでは、当学会福岡支部会の課題と期待することについて、参加者によるグループディスカッションを行い、以下のような意見が集約されました。

JPCA福岡県支部会の現状課題、今後の展望について

グループ討論 18:30まで 共有 18:40まで

(課題)

- ・講習会が遠いと困る
- ・地域とつながるノウハウがわからない
- ・JPCAの地域づくりに関する勉強会の情報が県に届いていない
- ・支部会の勉強会に各職種の単位取得をどう紐づけるか

令和元年時点で実施：医師会生涯教育単位、睡眠薬30日以上処方資格、JPCA認定・専門医単位、PC薬剤師単位を認定した

県内の郡市医師会で多職種勉強会をやった場合、医師会県支部・市支部・JPCAのすべての単位をとれたことがある。手続きが大変だが、スケジュール入れのタイミングなどコツがわかればやりやすくなる

- ・県医師会と連動して 活動を共有するには

県・郡市という構造になっているので、事業がふられている流れを見極めて、総合診療プログラムが関わっていくとよい(例：乳児検診実施、トランジション児のケア調整、)

- ・ジェネレーションギャップをどうするか

医学生場合：地域実習では新たな経験をできることもある。一定の割合で総合診療の志望者はいる
ロールモデリングが必要。服装などは問題になりやすい(Tシャツ)

学習意欲やスタイルが世代によって大きく違う

薬剤師の場合：調剤では、新人薬剤師と担当指導で交換日記をつけて、週1回話し合いをしている
規約では学生は無料で参加できるようにしているが、本日もこの支部会に学生・初期研修医がいない。年1回の学生勉強会は支援している

- ・JPCA県支部会としてのカラーがまだよくわからない。職種ごとにどこにいるかわからない
- ・支部会会員のリストも支部会活動に利用とした時、JPCA全国のレベルでのリストはあるのですが、連絡先について本人承諾の手続きが"県支部会"でとっていないとできなかったもので、支部会のメンバーリストをつくり、そこで本人承諾をいただいた(400人が県内にいる)

(期待すること)

- ・各種単位取得
- ・ジェネレーションギャップ克服の方法
- ・指導の際にプライマリ・ケアの概念と照らし合わせられる教材
- ・近くでやってもらえる講習会が魅力。東京・大阪とかでなく福岡で！
単職種学会よりも、多職種で話しやすいJPCAの雰囲気を活かした教育機会がほしい
- ・クリニックの先生方と現行の専門医制度の共有の場をつくる必要あり
専攻医ポートフォリオ発表会・医師会での勉強会・単位取得 を同じ場で
- ・地域住民とのつながりづくり：総合診療医がコミュニケーションしてもらえるとよくつながる気がする。

JCPAがそういった専門家のマッチングを各地域としてくれると助かる

- ・県単位の勉強会が、地域づくりの議論につながっていく。県の担当者にも勉強会での意見をデータベースにしてもらいたい(例 ACP)
- ・県内の学生・初期研修医が支部会に入っていく規約整備、環境づくりを推進する
- ・地域行政との関わりを強めたい。県・郡市レベルの行政・医師会・看護協会・薬剤師会などの縦横の関係を把握し、JPCA支部としての事業をいれていく
- ・在宅医療介護支援協議会などで100人単位で多職種の連携を協議しているが、そこにJPCA支部のメ

ンバーが入っていくのはどうか。JPCAの研修として認められるか

・県内 JPCA 会員を職種ごとにマッピングしてほしい、家庭医療・総合診療医がどこにいるかも見える化してほしい (JPCA ウェブサイトの専門医マップと会員個人登録について紹介した https://www.primary-care.or.jp/nintei_fp/fp_list.php)

・支部会として活動をする使途目的での、県内のJPCA会員リストの利用許諾を本人にとる方法を体系化してほしい (JPCA理事会に議題出しを検討する)



懇親会はシティ会議室となりのレストランにて開催し、18名が参加しました。

ここまで支部会を指揮くださった西野先生と茂木先生のご尽力に参加者一同感謝しつつ新しい体制による、福岡のプライマリ・ケアの発展を祈願し、閉会となりました。



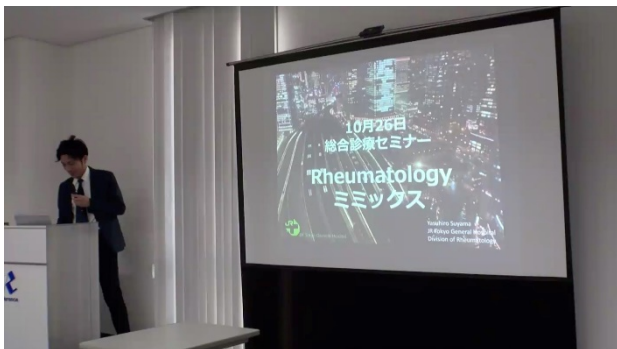
以上

文責 JPCA 福岡県支部会副支部長 吉田 伸
同支部長 鍋島 茂樹

活動報告 2

総合診療セミナー：Rheumatology ミミックス ～ 膠原病っぽくみえてしまう疾患たちにだまされない！～
令和元年10月26日（土） 参加者：12名 リファレンス駅東ビル貸会議室

医学書院の「総合診療」2019年7月号でリウマチ・膠原病ミミック症例帖の企画を担当していた陶山恭博先生にRheumatology ミミックスというタイトルで色々な話をさせていただきました。セミナーは3部構成となっており、まず第1部の「見逃したくない骨関節症状」から始まり、第2部は薬剤師も多く参加していたので「Rheumatology でよく使用される処方薬と副作用」について話を触れていただきました。最後に「PMR 7本ノック」という PMR に似ているけど異なる疾患に気がつけるかというテーマで話をさせていただきました。どの話も聞いていて、今まで診た症例の中に似たようなケースがあったり、なるほどと腑に落ちるような感覚も多かったようで、3時間と長時間ではありましたが集中してあっという間に時間が過ぎて行く印象でした。陶山先生の経験値と精巧にできたスライドから話足りない印象も受けました。ゆっくりと話を進めてくださっていましたが、知識がどうしても溢れてしまい早口になっているところも多々見受けられたのも印象的でした。



活動報告 3

多職種連携セミナー
令和元年11月9日（土） 参加者：40名 飯塚記念病院

第27回地域生活リハビリテーション研究会と共催という形で多職種連携セミナーを開催いたしました。11月上旬ということもあり、この日は他にも各地で研修会が目白押しでしたが約40名近い方が参加してくださいました。この地域生活リハビリテーション研究会での多職種連携に関するワークショップは今年で4回目になりますが、今回はコミュニケーションに特化した形で、「誰」に「何」を伝えることが大切なのか？その際にどのような事に気をつけると良いのか？などについて話をいたしました。こういったセミナーは一般的に「症例検討会」みたいになって退屈な時間をただただ過ごすだけになってしまいがちですが、参加者に複数の職種（医師以外）が揃っていたので、それぞれが主役になれる、そして相手の職種の特徴を知らないとうまく連携できないような仮想世界を作りだしてみんなで色々と考えてシェアをしてもらいました。セミナーをしている中で、また新しいニーズの掘り起こしができたり、講師をしていた医師も新しい知識を得たり、お互いにとって有意義な時間を過ごすことができました。



【宮崎県】

宮崎県支部では本年度の総会・講習会を12月7日（土）に開催いたしました。

総会は各種報告・及び協議を行い、事業計画案・歳入歳出予算案について承認を得ました。

また、総会終了後の講習会では、まずはじめに早稲田支部長の本会の歴史を含めたご挨拶をいただき、そして「病院で暴言・暴力、クレームに出会ったら」をテーマに、宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座の早川学先生、吉村学、三浦拓先生をはじめ、8名もの講師陣をお迎えし、多職種によるグループワークやシミュレーションを行いました。

クレーム対応の原則や、暴言・暴力の原因が精神疾患に起因するものか、などの見極めが大切であること、また現場においてクレームを生み出さないための接遇など、患者・患者家族と円滑な関係を築き、チーム医療を行うにあたり大切なことをご講義いただき、参加者70名で、盛会裡に終えました。



【鹿児島県】

(1) 第43回鹿児島地域医療教育報告会

日時：2019年11月21日（木）18：00～19：30

場所：鹿児島大学医学部 第4講義室

主催：鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 地域医療学分野/離島へき地医療人育成センター

鹿児島大学

鹿児島県くらし保健福祉部 保健医療福祉課医療人材確保対策室

共催：日本プライマリ・ケア連合学会鹿児島県支部

後援：鹿児島県医師会

講演：「 離島医療はおもろいで！ 」

隠岐広域連立隠岐島前病院 院長 白石 吉彦 先生

参加者数：88名

(2) 第12回地域医療シンポジウム in 奄美

日時：2019年11月22日(金) 19:00~20:30

場所：大島郡医師会館

主催：鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 地域医療学分野/離島へき地医療人育成センター

鹿児島大学

共催：日本プライマリ・ケア連合学会鹿児島県支部

後援：鹿児島県医師会、大島郡医師会

講演：「 離島医療はおもろいで！ ～地域医療の仕組み作りから外来超音波診療まで～」

隠岐広域連立隠岐島前病院 院長 白石 吉彦 先生

参加者数：51名